

1 自己評価及び外部評価結果(両ユニット共通)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870101431		
法人名	医療法人 雄久会		
事業所名	グループホーム うらら		
所在地	福井県福井市木田1-3308		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kouhyo-fukui.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1870101431&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成22年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の意向を確認しながら外出の機会を多くしたいと思っています。グループホームうららが入居者の方にとって第2の家と思ってもらえるように個別ケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、福井市中心部にありながら周囲は公園や木々の多い環境豊かな住宅街に立地しており、敷地内には同一法人運営の病院と介護老人保健施設等が併設されている。ホームの「家庭的な環境のもとで、安心と尊厳ある生活を利用者が可能な限り自立して営むことができるよう支援する。」という理念のもと、職員は日々のケアに努めている。例えば、食事の際に時間がかかったりこぼすようなことがあっても、職員が本人の能力を見極めできることを活かすような支援を行うなど、あらゆる面で入居者の自立に向けた個別ケアに取り組んでいる。また、入居者の気分転換のため外出支援にも積極的に取り組むなど、理念に基づいたきめ細かな取り組みや工夫を行っているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(両ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏にリネンを刷り込み常に携帯してリネンに基づくサービスの徹底に努めている。朝礼時には、理念を唱和している。	ホーム独自の理念を玄関に掲示する他、職員の名札の裏にも記載しており、朝礼時にも唱和している。また、理念を具体化した介護目標を掲げており、全職員で意識の統一を図り、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時のあいさつや納涼祭などに参加を呼びかけたりしている。	運営法人として自治会に加入し、公民館祭りや社会奉仕活動などの地域行事に参加している。また、運営法人が実施する納涼祭には、入居者の家族のみならず、近隣の地域住民が多数参加している。	地域住民に地域密着型事業所であるグループホームの役割を理解してもらうよう啓発するための取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の広報紙等を公民館や地域包括支援センターを通じて地域住民に配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が事業所の活動状況を報告し各委員から出た意見要望等を職員にも報告しサービスの向上に活かしている。	公民館職員・民生委員・婦人会代表・市介護相談員・家族会役員などの参加を得、出席者からは意見・要望・提案などがなされている。また、会議の内容は、全職員に報告するとともに、家族会開催時に役員が報告するなど、内容を公表し運営に反映させ、サービスの向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現場では特にやっていませんが、市の介護相談員の人がつき1回来て様子をみていきます。又、介護相談員は運営推進会議の委員として協力してもらっている。	市の介護相談員が毎月訪問し、さまざまな相談やアドバイスに応じてくれる。また、行政とのコーディネーターの役割も果たしてくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間など職員の手がない時は玄関は施錠する。ベランダもあぶないので施錠しているが利用者が出たい時は一緒に出るようにしている。	職員は勉強会を通じて、身体拘束の実態と弊害を認識している。身体拘束を排除する取り組みに関するマニュアルも整備されている。玄関は日中施錠せず、職員による見守りで入居者が外出したい様子を察知した時には、一緒に散歩やベランダに出て外気を吸って気分を一新してもらうなどの配慮がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回内部研修の中に高齢者虐待防止についての勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1年に1回内部研修会にて制度について勉強する機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務所で行っている。その都度家族に説明し同意を得て署名捺印を受領している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議では利用者や家族の意見、要望を聴き一緒に考えるようにしている。又、意見箱も設置し気兼ねなく意見や要望が表せるようにしている。	家族の訪問時に直接話を聴いたり、意見箱などを通じて意見や要望を把握している。また、毎年開催する家族会や運営推進会議の場で発言してもらうなど、気兼ねなく思いを表せるように配慮している。意見や要望は申し送りノートを活用し、職員同士で内容や対応を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を月1回開催し、意見や提案を協議している。	毎日のミーティングや毎月のホーム会議の場で問題提起や提案などを聴き、問題の共有や提案内容についての協議を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回個別面談を行い、1年の目標や反省など聞く機会を設けている。又、職員個々の評価表なども作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じて介護技術向上の基礎研修や専門研修などに参加している。又、内部研修でも段階に応じた研修を企画し参加しやすいようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他事業所との情報交換を行い、サービスの質の向上に役立てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	わかりやすい言葉には言い換えて、自分の思いを表出しやすい雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴、受容、共感に心がけて信頼関係を深めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を決めて対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場としての関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を第一の支援者と考え、常に家族と相談しながら対応するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人はいつでも面会できるようになっており、自宅等への外出、外泊も自由に行えるようになっている。	家族や馴染みの友人が訪問しやすいように配慮されており、頻りに訪問されていることが訪問ノートからも確認ができた。また、馴染みの方からの電話の取次ぎや美容院の方に来てもらうなど、関係性が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が馴染みの関係になるように見守りなどを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も同じグループ内の施設などに入所された利用者などには機会をみつけて面会したりなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全や健康に問題がない範囲で努めています。	朝の挨拶時に言葉や表情などからその日の体調を把握するとともに、手を握るなど入居者とのふれあいを通じ、本人の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時や本人、家族との会話を通じて認知症介護研究センター方式に基いて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動観察や本人との会話を通して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では毎日のように話し合いを行い、疑問点や不明点は家族や主治医とも相談して計画作成している。	毎日のモニタリングから入居者の変化を見逃さないように努め、職員間で十分に話し合い家族や主治医と相談し、介護計画を作成している。毎月、見直しを行うなど、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日カルテに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老人保健施設、病院、デイサービス等グループ全体としての多機能化をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会には特に制限がなく、家族だけでなく、友人、知人、宗教関係の人も出入りしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院も持っているが、本人、家族の希望があれば、かかりつけ医の受診も行っており、その際の情報提供もしている。	かかりつけ医での受診時は家族に同行をお願いし、併設している病院での受診時は職員が同行している。入居者に関する情報提供を行うとともに、受診時の結果を把握するなど、情報の共有に努めている。また、月2回、併設病院からの往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院があるので毎日主治医に一人一人の状態を報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院があるので毎日主治医に一人一人の状態を報告し、指示を受けている。十分な関係作りが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向を優先に取り組んでいます。グループとしていろんな環境を提供できるので、多彩な対応がとれていると思います。	入居時に家族・本人から、重度化・終末期における意向を聴き、できる限りその意向に沿えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDなど緊急時の対応についての実習を年1回定期的に研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練などを行っている定期的に年2回行っている。	年2回、消防署の協力の下、避難訓練を実施している。消火器も分かりやすい所に設置されており、また、スプリンクラーを2011年3月に設置予定である。	年2回の訓練の内、1回は職員が少ない夜間時を想定した訓練の実施を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分とはいえないが職員ひとりひとりが接遇を意識した対応に心がけている。	内部研修のテーマに「プライバシー」を取り上げ、やわらかいトーンでの話し方や手を握るなど身体的満足を感じさせるケアについて学習している。調査時、日々のケアの中で一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを意識したケアがなされていることが確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思表示できない人もいますが、なるべく本人の気持ちをくみとるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活なので100%は無理ですが、出来るだけ希望にそようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に衣類に制限は設けていません。好きなものを着てもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全に配慮しながら出来ることに取り組んでもらっています。	食堂は対面式キッチンで、調理場からは入居者の行動が見守れるようになっている。職員は普段着にエプロンという家庭的な服装で、入居者と一緒に食事の準備をした後、同じテーブルで和気あいあいと食事をしていた。全介助にならないよう、利用者の残存能力を活かした介助がなされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立て、摂取量は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っているが、うまくできない人には磨き残しの介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立にむけた支援を行っているが失禁回数が増えて対応が困難な人もいる。	入居者の排泄リズム・習慣・サインなどを把握しながら、自立支援にむけた介助が行われている。居室近くのトイレには分かりやすいよう大きく表示されており、迷わずに一人でも行けるよう工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示も仰ぎながら場合によっては、下剤等も使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく希望に添う様にしているが、行事や職員の都合で決めることもある。	一般家庭にあるようなユニットバスで、週2回、個別対応のマンツーマン介助による入浴支援がなされている。入浴を拒む入居者には時間を置き、再び誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的な休息を制限することはない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬はすべて概要を調べ、疑問点は主治医に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や工作、外出、会話など多彩なレクリエーションを用意し本人が好むことを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に合わせるの無理なときもあるがほとんど希望通り外出出来ている。天候に合わせてドライブや行楽など積極的に行っている。	入居者のストレス解消のため、個別の希望を聴き、公園への散歩、ドライブ、ベンチでの茶話会など積極的な外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には個人でお金を持つことはない。ユニットごとに自由に使えるお金で外出したときに小額のものを買ったりはしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば居室に電話をつけることも出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心がけている。安全にも配慮している。	リビングは南向きで一面がガラス張りであり、採光もよく、ガラス越しからは周辺の町並みや四季の移ろいを感じることができる。また、ホーム内には手すりが設置されており、安全面にも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる場所はないが、利用者同士が過ごす場所はある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物に特に制限はない。	居室にはエアコン・ベッド・クローゼット等が備え付けられているが、障子をはめ込むなど家庭的な空間となるような配慮がなされている。この他、仏壇・ぬいぐるみ・タンス等、入居者が持ち込みたい物を自由に持ち込むことで個性豊かな居室となっており、本人が居心地良く過ごしている様子がうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人により表札を大きくしたりしている。		